

問

教員の働き方改革について



部活動に所属している生徒数及び割合につきましては、全校生徒248名中207名で全体の約84%です。生徒のニーズといたしましては、アンケート等の調査は実施しておりませんが、より専門的な指導や部活動以外の取組に対するニーズがあるものと推測いたします。

問

活動状況とニーズについて



教育長

部活動に所属している生徒数及び割合につきましては、全校生徒248名中207名で全体の約84%です。生徒のニーズといたしましては、アンケート等の調査は実施しておりませんが、より専門的な指導や部活動以外の取組に対するニーズがあるものと推測いたします。

教育長

平成30年に部活動方針を策定し、休養日につきましては、平日は少なくとも1日以上、週末は、少なくとも1日以上を休養日とすると定めております。また、活動時間につきましては、長くとも平日では2時間程度、休業日は3時間程度と定めております。この方針に基づきまして部活動を実施しておりますので、教員の時間外在校等の時間は減少傾向となっております。

問

協議会の設置と推進計画の策定について

教育長

協議会につきましては、まだ設置ができていない状況です。県内を見ますと、既に設置をして取組を進めている地域もございます。ただ、町としてこれまで検討を重ねてきて、その上でなかなかこの地域展開が難しいという部分もあり状況を見ながら進んできました。

問

どうなる部活動

答

存続していくには難しい状況（教育長）

ただ、地域展開をしていかないと、部活動を存続していくには難しい状況も出てきますので、できるだけ早い段階に協議会も設置いたしまして、それに基づいた部活動の在り方について検討を進めていきたいと考えています。



問

埼玉県で設置している人材バンクの活用について

教育長

人材バンクを含め、部活動が今後存続していくためには、そこに協力をしていただけの方をいかに増やしていくかというのが重要だというふうに考えております。地域の方のご協力を部活動の中にもいただくということで、部活動が存続していくものだというふうに考えております。

問

小学校統合による環境整備と施設の充実に

町長

子どもたちをまちづくりにや新たな時代に合わせたコミュニケーションの醸成みたいな形に結びつけられるかというの、この統合に当たってはできるというふうには考えています。

教育長

中学校体育館、小学校の体育館、またグラウンド等も広くなる予定です。そちらを学校の教育活動、部活動だけでなく、また地域とも絡めた形で活用していきたいと考えています。





問

R Sウイルス感染症の周知とワクチン予防接種
費用の助成について

答

感染症予防の普及啓発及び注意喚起を広く行い、ワクチン
接種は補助対象とできるよう研究していく（町長）

問

肺炎を引き起こすウイルス感染症として今、注意喚起されているのがRSウイルス感染症です。2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスに感染すると言われており、生後6カ月未満の乳幼児が初感染した場合は、肺炎等重症化を招き入院するケースが珍しくありません。また加齢や基礎疾患などで免疫力が落ちた高齢者も感染すると重症化し、肺炎によるリスクが高まります。

しかし、感染しても治療薬がないことから、病院で検査されないことも多く、RSウイルスに感染していることはほとんど知られていません。

町長

集団感染のようなことが起きない限り、疾患の認知がされないのが現状であり、適切な診断の機会も少なく「見逃されてきたウイルス感染症」と言っても過言ではありません。そこで本町における肺炎予防の一環として、RSウイルス感染症について、疾患の周知と感染予防への注意喚起を行う考えがあるか伺います。

RSウイルス感染症は、RSウイルスは日本を含め世界中に分布しています。感染経路は、咳やくしゃみ等により飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物などを介した接触感染と言われており、感染

問

治療薬のないRSウイルス感染症に対する唯一の予防方法として、今回、開発・承認されたワクチンは大変価値があるものです。



予防には手洗い、消毒、うがい、マスクが極めて有効です。このことから、まずはRSウイルス感染症予防の普及啓発及び注意喚起を広く行つてまいります。

町長

RSウイルス感染症には特効薬がない中で、ワクチン接種は感染予防として期待されております。しかしながら、現在のところ、児玉郡市内でワクチンを接種できる医療機関は妊婦を対象とした1か所と、高齢者対象の

が、2年に1回の接種で効果が保たれるので、接種回数は少なく済みますが、1回2万5千円から3万円台と高額なため負担の重さからためらう人も多いと見られます。少しでも赤ちゃんや高齢者の皆様が接種しやすいように、接種費用の一部助成を検討していただけないかお聞きします。

1か所のみで町内にはありません。今後多くの医療機関でも対応されると思われますので、本庄市児玉郡医師会や近隣自治体と調整をし、補助対象とできるよう研究してまいります。





問

リサイクルステーションや常時回収ボックスを

答

将来的にこの役場周辺の整備の中で、ぜひ考えていく（町長）

問

最近各行政区の収集所にて、ステッカーの貼られた燃えないごみ等の内容物を取り出し、整理を行っている現場をよく見ます。全ては収集車の運搬中に火災が心配されること。

小山川クリーンセンターが

火災になり、被害を受けた場合に想定されるごみ収集のストップや各市町からの修繕費の負担金を抑えるためにも、行政区の防災訓練時等や人が集まるときを利用し「火災につながるごみ出しストップ」をテーマにした学習会ができないか伺います。

町長

小山川クリーンセンターでは、令和7年度

問

の8月までに99回の発火現象が発生をし、いつ大きな火災につながるかわからない状況です。リサイクルしやすくする工夫や、利便性の高い回収体制を研究し、ほかのごみに混入して発火事故が起こらないようにと考えております。

上里町はリサイクルボックス、本庄市も常時設置、神川町は缶類の分別回収や古紙リサイクルステーションを行っています。分別することで資源なのだよという気持ちで定着すると思うが

児玉郡でやってないのは美里町だけです。

ぜひリサイクルステーション

町長

将来的には、ご指摘のとおり、リサイクルステーションを置いて、そこで休日も平日も含めて、一定の時間人がいて分別ができる仕掛けがどうしても必要なだろうと思いますので、将来的にこの役場周辺の整備の中でぜひ考えていくべきかなというふうに考えているところで

問

資格確認書と被保険者証について

マイナ保険証を持っている方でも、申請をす

ると被保険者証と同様の資格確認書が発行される状況が生まれていると聞いています。そういった人が対象となるのか伺います。

期限の切れた令和6年度の被保険者証が、令和7年度も使用できると新聞記事を見つけたがいつまで使えるのか伺います。

課長 高齢者の方や障害をお持ちの方など、マイナ保険証での受診が困難で、配慮が必要な方が対象です。誤って医療機関の窓口に期限が切れた保険証を持参してしまった場合、医療機関で保険資格が確認できれば差し支えない取り扱いが可能となつて



上里町リサイクルボックス



おります。この取扱いは、令和8年3月31日までです。



問

仮称「水殿瓦窯跡公園」について

答

町を代表する公園としての整備を検討しており、少しお時間をいただきたい（町長）

問

地域の特性や水殿瓦窯跡、また小川等を利用した多機能広場としての公園計画だったと思いますが、どのようになっているのかお聞きます。

町長

水殿瓦窯跡周辺の公園整備は、ご指摘のとおり身馴川公園の代替として計画しているものです。

計画では、中央部に国指定

の史跡を有するというまたとない特徴もあることから、地域の憩いの場としての役割に加え、歴史口マンも感じられる、町を代表する公園としての整備を民間の事業者から広くアイデアや意見を聞くサウディング調査等を重ねなが

問

地元説明会は開催されたのかお聞きます。

町長

令和5年度に公園予定地に隣接する宅地関係者と沼上行政区の役員に対し、公園整備の実施について説明をし、意見交換を行っております。地元からは、公園整備に伴う周辺の雨水排水への要望をいただいたため、側溝整

問

土地の購入についてお聞きます。

町長

国指定史跡である水殿瓦窯跡は、全ての窯跡を町が町有地として保存していなかったため、チャンスがあれば購入したいと考えておりました。

令和4年度には史跡周辺の約6,600平方メートルの用地購入をしましたが、用地測量に約300万円、用地の取得に約2,300万円、物件保障に約85万円、測量設計に約600万円ほどかけてあります。

問

建設予算についてお聞きます。

町長

身馴川公園売却費を原資とする公園整備基金残金が、現在1億2,600万円あります。これ以内で整備することを基本としていますが、いずれにしても整備方針などが決まっていけないので、決めた段階で協議をさせていただきますながら、仮にもし基金だけで足りないということになりましたら、一般財源を投入することも考えられることなのかと思っておりますので、もう少しお時間をいただければと思います。



水殿瓦窯跡



問

DV対策強化と被害者に寄り添う取組について

答

相談窓口の周知や被害者の安全確保に努めます
(町長)

問

美里町におけるDV被害者支援の現状認識について、町の現状認識を正確に把握するため、過去3年間における町が受けたDVに関する相談件数と、その中で実際に一時保護に至った件数をそれぞれお示しください。

町長

過去3年間における町が受けたDVの相談件数は、多い年で年間4件、20歳代から80歳代まで幅広く相談を受けております。なお、相談から一時保護に至った事例はございません。町の男女共同参画推進プランの基本姿勢として、DVの問題を人権を著しく侵害する重大な犯罪行為と位置づけておりま



配偶者や知人等からの暴力(DV)に悩んでいませんか。相談してみると、ひとりでは気づかなかった解決方法が見つかるかもしれません。ひとりで悩まず、ご相談ください。お近くの相談窓口におつなぎします。

す。引き続き関係機関と連携し、相談窓口の周知や被害者の安全確保に努め、安心して健康に暮らすことができるま

問

被害者を孤立させないための町の主体的かつ具体的な取組について。次に現状を踏まえた上で、今後の未来に向けた町の具体的な行動計画について伺います。

課長

被害者の自立を支える包括的支援についての質問にお答えいたします。まず、周知啓発につきましては、DV等の悩みを匿名で相談できるチャットや、電話番号を記載した相談案内カードを役場の窓口やトイレに設置しています。また、二十歳を祝つ会でも毎年出席者全員に相談案内カードを配布しております。効果測定につきましては、年間の相談件数が少な

問

いことに加え、個々の事情が把握しにくいため、測定することが難しいと考えております。

美里町には、統廃合によつて生じる3つの小学校の跡地という、まだ活路の定まらない貴重な財産があります。この廃校を町民のみならず、広域からの被害者も受入れ可能な公的なDVシェルターとして活用も考えられます。これは、町の資産を有効活用し、深刻な社会課題の解決に貢献する、美里町ならではの先駆的な取組になると思います。町長の見解を伺います。

町長

埼玉県の女性相談支援センターにおける一時保護の受入れ状況を見ますと過去にも受入れができなかった事例はないため、現状では対応可能と考えています。このようなことから、県の施設等を利用することが現実的であると考えており、現状では新たにDVセンターを町に設置する考えはありません。





問

住民による、送迎ボランティアシステムとは、登録制や費用負担、保険加入などについて

答

どこまで町が支援できるのかNPO法人を呼んで勉強会をしようと考えております（町長）

1、住民による送迎ボランティアシステムについて

問

美里町においても住民参加型の送迎ボランティアシステムを検討しているということですが、町のお考えを伺います。

町長

町が所有する自動車を活用した買物送迎などできないか、今検討しているところです。

問

送迎は仕事に近い性質を持ち、気遣いや時間の負担を考えると、最低賃金の保証がないと続けにくいとの声も聞かれます。例えば、利用料金は一律500円とし、

町が差額を補助することで利用者の公平性とボランティアの継続性を両立させる仕組みを考えるのですが、町のご意見を伺います。

町長

地域住民のボランティアによる送迎支援では、走行中や乗降時の安全確保といった課題があり、ボランティアの負担も大きくなりそうです。想定される課題を洗い出し、美里町で実現可能な移動手段を研究し、早期に実現できるよう検討を進めてまいります。



問

自分の車を使うにはどうしたらいいですか。

町長

個人の車を使うということも含めて研究していきたいと思いますが、町の手を使うなり個人の車を使うなりした時に、どこまでだったらその支援をしても大丈夫なのか、しっかりと調べた上でどういう方法が一番いいのか考えているところです。

問

試験的にどこかの地区でモデル事業を始めるお考えはありますか。

町長

モデル地区を設けるのは一つの考え方だと思います。実際に運行してみても問題点を洗い出し、全的に

どうやって広げていくかということは当然考えられる話だと思います。

2、小中一貫校となった時のスクールバスの活用について

問

小学校児童通学のための十数台規模のスクールバスの空き時間を活用した住民送迎や地域交通の確保について伺います。

町長

空いている時間を有効活用するというのは当然の考え方になるかなと思います。



3、付き添いサービスについて

問

付き添いサービスを、社協や一般社団法人などの協同・委託で導入する可能性について、伺います。

町長

試験的にスパーに買い物ツアーみたいな形で送迎をするようなことは考えられます。集まってきたらえらるような仕掛けだとすれば、外出支援の一つのきっかけになり、我々はそれを踏まえて健康支援の仕組みをその中に取り入れることもできます。職員も今、研究してくれています。実現できればと考えています。